

# 周南市大津島の戦争遺産に関する研究

中川 明子<sup>\*1</sup> 木村 未希<sup>\*2</sup> 西山 翔太郎<sup>\*3</sup>

## A Study on the War Heritages in Ohzushima Island in Shunan City

Akiko NAKAGAWA<sup>\*1</sup>, Miki KIMURA<sup>\*2</sup> and Shotaro NISHIYAMA<sup>\*3</sup>

### Abstract

The purpose of this study is to make the report and to declare the historical value of the war heritage, such as Old Kaiten Launch Training Base in Ohzushima in Shunan city. At the same time, this study aims to propose the better way of conservation and utilization of war heritages, by developing the current situation and problems of conservation and utilization of war heritages of old Japanese Navy in Japan.

In this study, figures of each buildings of war heritages in Ohzushima were made by surveying Next the current situations of other war heritages of old Japanese Navy in Japan were analyzed on books and web. On the basis of these results, new way of conservation and utilization of war heritages in Ohzushima was suggested.

**Key Words** : Ohzushima, War Heritage, Old Kaiten Launch Training Base, Conservation and Utilization

### 1. 序論

本研究の対象地である大津島は、山口県周南市の徳山港の沖合約10数kmに浮かぶ面積4.73km<sup>2</sup>の小さな島である。島は人口約400人、7つの集落で構成されているが、高齢化率が約70%に達しており、少子過疎高齢化の進んだ限界集落である<sup>1)</sup>。

この大津島には第二次世界大戦中、回天発射訓練基地をはじめ、多くの軍事施設があった。回天とは通称人間魚雷と呼ばれ、魚雷に人間を搭乗させて敵艦に突撃する為の特攻兵器である。この回天を用いた回天作戦は、黒木博司中尉、仁科関夫少尉によって発案され、昭和19年8月に正式採用された。その結果、撃墜3艦、損傷4艦を記録している<sup>2)</sup>。

しかし戦争が終わった現在、数多くあった軍事施設の多くが既に失われ、現存するものも、回天発射訓練基地跡のように当時の面影を残すに留まっており、安全面、管

理面等の問題から立ち入り出来ないものも多い上、後述の通り、管理者がばらばらで体系的な保存活用がされているとは言い難い。

そこで、本研究の目的は大津島に現存する戦争遺産の現状を記録し、回天発射訓練基地跡に関する歴史的 위치を明らかにし、同時に日本各地の戦争遺産との比較を行いながら、この土地に適した保存活用方法を検討することを目的とする。

### 2. 大津島の戦争遺産について

#### (1) 回天発射訓練基地の沿革

徳山市史や小川宣氏の著作によれば、昭和12(1937)年から、大津島には、呉・光岡海軍工廠水雷部の魚雷の性能を試験する発射場(魚雷領収発射場)が開設された。この発射場には付属して魚雷調整工場も整備されていた。

<sup>\*1</sup> 土木建築工学科

<sup>\*2</sup> 中国電力株式会社

<sup>\*3</sup> 環境建設工学専攻 1年

工事過程は以下のものであった。まず、魚雷調整工場と発射場を結ぶトンネルの掘削が昭和12(1937)年に始まり、同時に発射場の土台になるケーソンの製作が大分築港事務所ではじめられた。総重量700t、幅7.5m、長さ12m、高さ10mに及ぶ大ケーソン8個が大分で完成すると、昭和13(1938)年10月から翌年10月にかけて順次大津島に船で運搬され、11月に二日がかりで馬島の構築現場に運ばれて土台として設置された。その後、急ピッチで魚雷発射試験場の施設が設けられたものと思われる。発射場の完成までは船上からの発射試験のみを行っていた。

米軍のレーダーの進歩により思うように戦果があげられなくなり、兵器庫に大量に余っていた九三式酸素魚雷を改造して人間が乗り込めるようにしたものが回天であるが、救命装置が問題となり、当初は採用が見送られ続けた。

しかし、昭和19(1944)年8月、回天は正式採用され、それを期に同年9月1日に魚雷発射試験場は回天発射訓練基地となり、この時、試験場の設備の多くはそのまま回天発射訓練基地になった後も使用された。

回天発射訓練基地では、クレーンにより回天を海面に下ろし、横抱き艇によって回天を発進基地まで曳航した後、合図を受けた搭乗員がエンジンをかけて潜水し、訓練が行われた。終戦までに訓練を受けた回天搭乗員は1375人に及び、実際に出撃した搭乗員は106人であった<sup>3),4),5)</sup>。

図-1に、現在は防衛研究所所蔵の、終戦直後の昭和

20年8月31日に作成された引渡目録中の光部隊大津島分遣隊の所有物資の状況が描き込まれた図を示す。この図からは、当時の魚雷調整工場、発射基地、兵舎の状況を知ることが出来る。戦争で使用されなかった魚雷などがトンネル内にそのまま残されていたことも分かる<sup>6)</sup>。

## (2) 回天発射訓練基地の現状

ここでは大津島島内の回天発射訓練基地跡近辺の現状について述べる。

まず、回天発射訓練基地跡(写真-1)は平成7年から8年にかけて、劣化したコンクリートをはつり、劣化した鉄筋を取り替えるなどの大変大規模な改修工事が行われたが、現在、安全面の理由から立入りが出来るのは一部分である。管理は周南市役所都市建設部公園花とみどり課である。平成18年には、『全国で唯一残っている太平洋戦争末期につくられた人間魚雷「回天」の発射訓練基地で、戦争遺産として貴重である。』として、土木学会選奨土木遺産に選ばれている<sup>7)</sup>。

回天発射訓練基地に続くトンネル(写真-2)は現在も回天発射訓練基地跡に続く道として利用されており、内部には歩行者に反応する音声ガイドが設置されている。管理は発射訓練基地跡同様、周南市役所都市建設部公園花とみどり課である。見張り台跡(写真-3)、魚雷調整工場門柱(写真-4)も同様である。

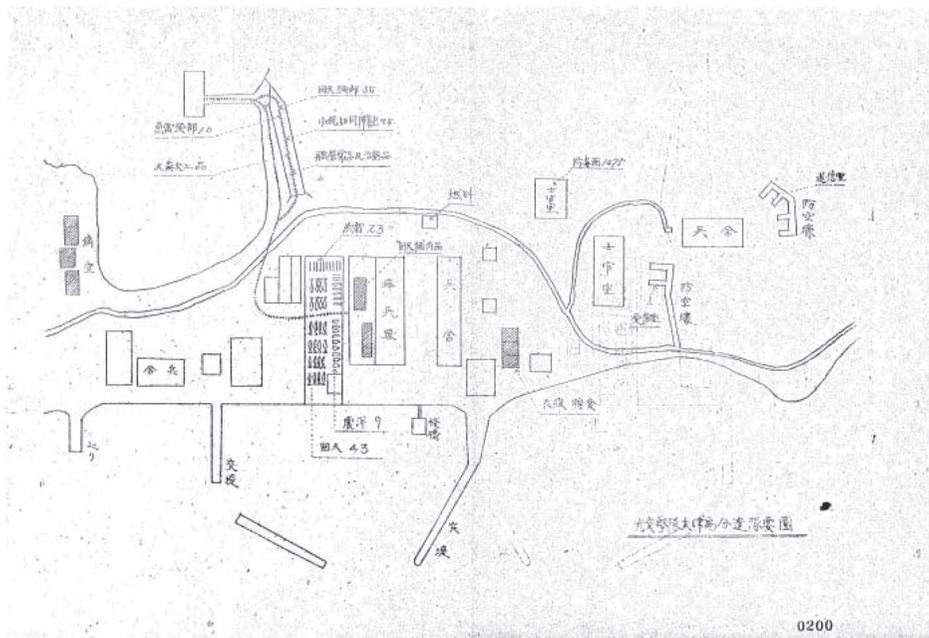


図-1 昭和20年8月31日の大津島分遣隊の状況図



写真-1 回天発射訓練基地跡



写真-2 トンネル内部



写真-3 見張り台跡



写真-4 魚雷調整工場門柱



写真-5 大津島幼・小・中学校内に残る点火試験場跡



写真-6 大津島幼・小・中学校内に残る危険物貯蔵庫跡



写真-7 大津島幼・小・中学校内に残る変電所跡



写真-8 大津島幼・小・中学校内に残る  
兵士訓練用階段跡

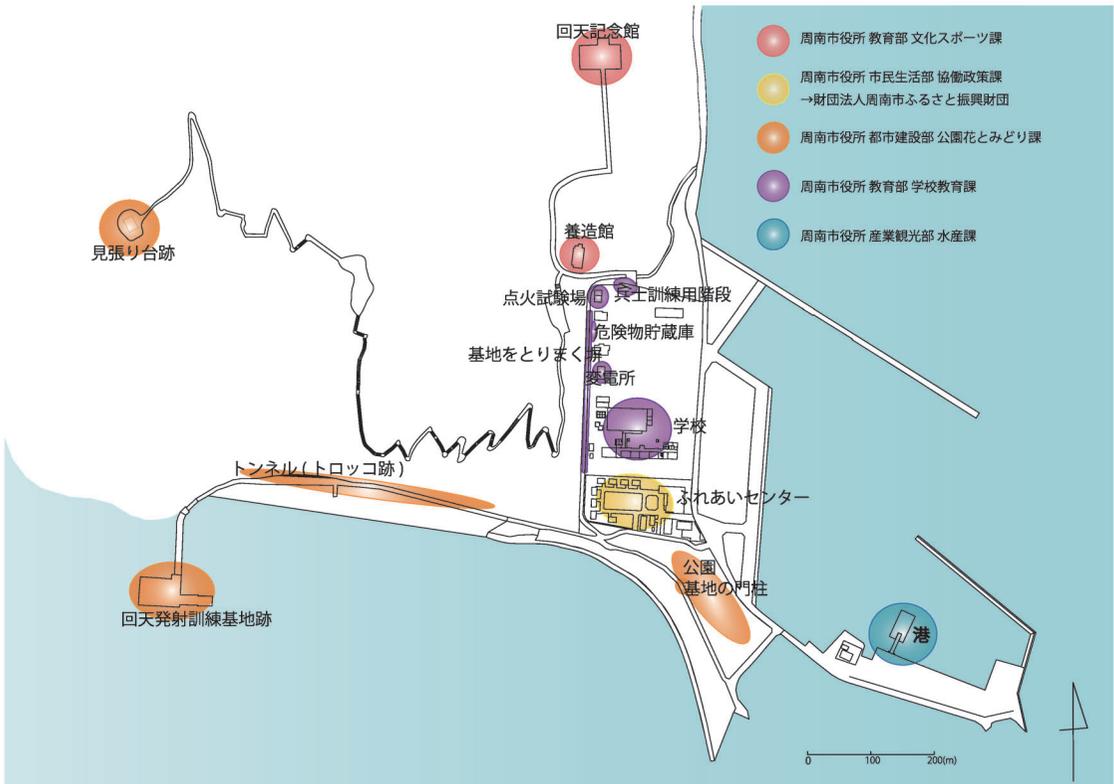


図-2 大津島戦争遺産現状図

兵舎や魚雷調整工場（点火試験場跡（写真-5）、危険物貯蔵庫跡（写真-6）、変電所跡（写真-7）、兵士訓練用階段（写真-8）を含む）があった部分の大部分には、現在は大津島幼・小・中学校と大津島ふれあいセンターがあり、これらの管理状況については、学校は周南市役所教育部学校教育課が管理者であり、ふれあいセンターは周南市役所市民生活部共同政策課が財団法人周南市ふるさと振興財団に管理を委嘱している。

栈橋があった場所は現在の馬島港と重なり、その管理は周南市役所産業観光部水産課である。

他に、戦後整備された、回天記念館および養造館は周南市教育部文化スポーツ課が管理している。

以上のように、各施設の管理者はばらばらであり、発射訓練基地跡の遺構は様々な形で転用されているものの、明確な用途が無いものも見受けられる。各施設の現状と管理状況は図-2を参照されたい。

また、戦後間もなく、軍事施設の多くは解体され、当時の物資不足から解体された資材は様々な方法で再利用された。例えば、その内の一部は、地元の徳山商工会議所、丸福ホテル（現：ザ・グラマシー）などに利用された<sup>8)</sup>。

### 3. 研究方法

#### (1) 現地調査

文化財指定を目し、その際に提出する基礎資料作成のために大津島の各戦争遺産の実測調査及び写真撮影を行った。使用した道具は下記の通りである。

- a) 光波距離計（Leica : TCR805S power）
- b) 巻尺（シンワ : FW-50）
- c) 曲尺（シンワ : 厚手広巾シルバー 50cm 11481）
- d) トータルステーション（Leica : Leica DISTO A5）
- e) 方眼紙（コクヨ : 方眼紙 ホ -18N A3 1mm 方眼）
- f) デジタル一眼レフカメラ（CANON : EOS 30D）

#### (2) 戦争遺産の保存活用状況の調査

関連書籍や、インターネット等で日本各地の戦争遺産について判明する限り調査し、結果を遺産名称、竣工年、構造、所在地、活用・備考の各項目について表にまとめた。

#### (3) 保存活用方法の検討

現地調査の結果を参照し、他の海軍関連戦争遺産と比較することで、大津島の戦争遺産の保存活用状況について検討した。

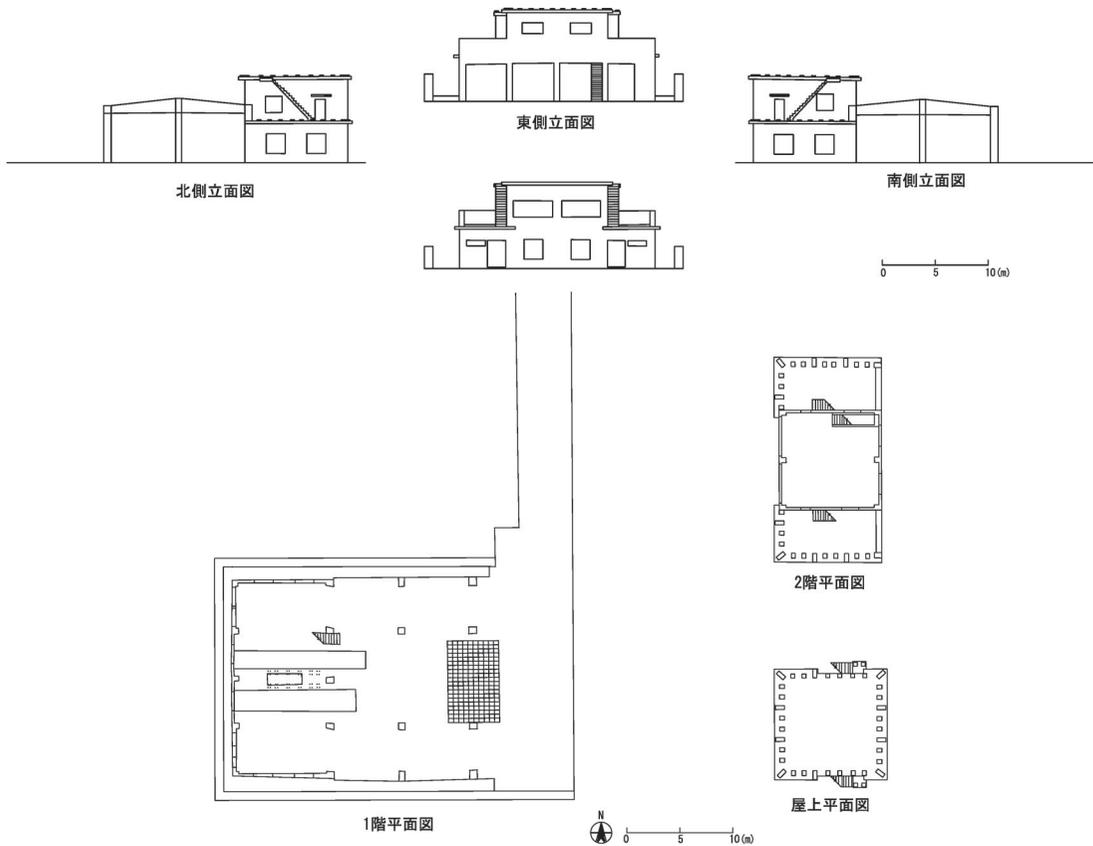


図-3 回天発射訓練基地跡実測図

## 4. 現地調査

### (1) 概要

2009年9月7日から2009年9月11日の日程で、周南市教育委員会、大津島総合支所の協力を得て、回天発射基地跡、見張り台跡及び見張り台跡までの遊歩道、兵士訓練用階段、変電所跡、危険物貯蔵庫跡、点火試験場跡の実測調査及び写真撮影を実施した。

### (2) 図面

実測したデータを基に、フリーCADソフトのJW-CADで各建造物について図-3のような図面を作成した。また、ここで作成した図面は文化財指定を申請する際の基礎資料として提供することも視野に入れている。

## 5. 日本の戦争遺産の現状

### (1) 現状整理及び判定結果

2002年から2009年にかけて出版された戦争遺産に関

する書籍5冊<sup>9),10),11),12),13)</sup>及び、インターネット上<sup>14)</sup>から日本各地に点在する戦争遺産100件について調べ、表-1にまとめた。

その際保存状況として、管理が施されつつ現状維持できているものを○、再整備・転用されているものを□、管理が不十分で時間経過による風化が起きているものを△、管理不良により荒地化しているものを×と判定した。管理の状態は、参照した書籍の記述を基に判断した。

この結果、○:44件、□:17件、△:32件、×:7件であり、○と判断できる、管理が施されつつ現状維持できているものが約半数を占めた。この44件の内、27%に当たる12件が指定文化財、指定史跡、登録文化財になっていることが明らかになった。このことから、既に戦争遺産も政策的に文化財として捉えられる時代になっていると言える。

指定や登録の理由としては、「日本最初のものである」、「市民生活と深く関わってきたことの象徴」、「全国的に見ても大きなもの」、「再現することが容易ではないもの」、「意匠的に優秀なもの」、「歴史的価値の高いもの」が挙げられている。

また、再整備、転用されているものが17件であるが、

表-1 海軍関連戦争遺跡の現状について

遺跡名称	竣工年	構造	所在地	活用・備考	出展	判定
十勝トーチカ群	1944	コンクリート	北海道広尾郡	海中に消える恐れあり	下道基行:戦争のかたち, p.110, 株式会社リトルモア, 2005.	×
苫小牧・勇払トーチカ群	1944	コンクリート	北海道勇払群	海中に消える恐れあり	下道基行:戦争のかたち, p.110, 株式会社リトルモア, 2005.	×
海軍牧ノ内飛行場跡滑走路	1935	コンクリート	北海道根室市	荒地化	NPOこどもの教育を考える会: <a href="http://www.npo-kyouiku.org/index.html">http://www.npo-kyouiku.org/index.html</a>	×
美幌海軍航空隊第二基地跡 掩体壕	1938	コンクリート	北海道女満別町	私有地	安島大佳由:訪ねてみよう!日本の戦争遺産, pp.220-225, 株式会社角川SSコミュニケーションズ, 2009.	□
稚内旧飛行場	1943	コンクリート	北海道稚内市声間大沼	野鳥観察センター	安島大佳由:訪ねてみよう!日本の戦争遺産, pp.220-225, 株式会社角川SSコミュニケーションズ, 2009.	□
龍飛監視哨跡(津軽要塞の一部)	1941	コンクリート	青森県東津軽群	ベンチ(一部解体)	NPOこどもの教育を考える会: <a href="http://www.npo-kyouiku.org/index.html">http://www.npo-kyouiku.org/index.html</a>	○
海軍樺山飛行場跡滑走路	-	コンクリート	青森県下北半島	非公開	NPOこどもの教育を考える会: <a href="http://www.npo-kyouiku.org/index.html">http://www.npo-kyouiku.org/index.html</a>	×
旧海軍大湊要港部水源地区堰堤	1910	石造アーチ式	青森県むつ市	むつ市水源公園内, むつ市管理, 県指定重要文化財(日本初の石造アーチ式)	安島大佳由:訪ねてみよう!日本の戦争遺産, pp.216-219, 株式会社角川SSコミュニケーションズ, 2009.	○
旧大湊要港部 会議所(旧大湊水交支社)	1915	石造平屋建て鉄板葺き	青森県むつ市	海上自衛隊展示資料館(北洋館)	飯田則夫:図説 日本の軍事遺跡, p.27, 河出書房新社, 2004.	□
神町海軍航空隊基地若木山防空壕跡	1943	コンクリート	山形県東根市神町	一般公開, 同神社氏子総代会管理	菊池実, 十菱駿武:しらべる戦争遺跡の事典, pp.188-189, 柏書房株式会社	○
第一海軍 火薬廠掩体壕跡	-	コンクリート	宮城県柴田郡大河原町	仙台大学キャンパス・角田ロケット開発センター	NPOこどもの教育を考える会: <a href="http://www.npo-kyouiku.org/index.html">http://www.npo-kyouiku.org/index.html</a>	○
神之池海軍航空隊掩体壕	1944	コンクリート	茨城県鹿嶋市	桜花公園	NPOこどもの教育を考える会: <a href="http://www.npo-kyouiku.org/index.html">http://www.npo-kyouiku.org/index.html</a>	○
霞ヶ浦海軍航空隊旧隊門	1912	-	茨城県稲敷郡阿見町	阿見町立阿見小学校の正門	飯田則夫:図説 日本の軍事遺跡, pp.36-39, 河出書房新社, 2004.	○
霞ヶ浦海軍航空隊プール跡	1912	-	茨城県稲敷郡阿見町	廃材置き場(茨城大学農学部のキャンパス内)	飯田則夫:図説 日本の軍事遺跡, pp.36-39, 河出書房新社, 2004.	△
土浦海軍航空隊 旧日本部庁舎	1940	鉄筋コンクリート3階建て	茨城県稲敷郡阿見町	東半分:陸上自衛隊武器学校	杉本惇:旧軍史跡 現代に遺された戦争遺産, pp.68-71, 大日本印刷株式会社, 2004.	○
土浦海軍航空隊 号令台と国旗掲揚台	1940	-	茨城県稲敷郡阿見町	号令台・ポールは使用禁止	杉本惇:旧軍史跡 現代に遺された戦争遺産, pp.68-71, 大日本印刷株式会社, 2004.	○
土浦海軍航空隊 旧医務科	1940	コの字型平屋建て	茨城県稲敷郡阿見町	武器資料館	杉本惇:旧軍史跡 現代に遺された戦争遺産, pp.68-71, 大日本印刷株式会社, 2004.	□
鹿島海軍航空隊 旧司令部庁舎	1938	-	茨城県稲敷郡美浦村	近年まで病院施設, 国立博物館管理	安島大佳由:訪ねてみよう!日本の戦争遺産, pp.192-195, 株式会社角川SSコミュニケーションズ, 2009.	○
鹿島海軍航空隊カタパルト跡 横棧橋	1938	鉄筋, コンクリート	茨城県稲敷郡美浦村	立ち入り禁止	安島大佳由:訪ねてみよう!日本の戦争遺産, pp.192-195, 株式会社角川SSコミュニケーションズ, 2009.	△
神ノ池海軍航空隊 掩体壕	1944	コンクリート	茨城県鹿嶋市	桜花公園, 入り口前柵有り	安島大佳由:訪ねてみよう!日本の戦争遺産, pp.192-195, 株式会社角川SSコミュニケーションズ, 2009.	△
「元ロシア人兵士の墓」陸海軍の墓地	明治	コンクリート	群馬県高崎市高松町	市指定史跡(市民生活と深く関わってきたことの象徴)	菊池実, 十菱駿武:しらべる戦争遺跡の事典, pp.116-118., 柏書房株式会社, 2002.	○
父島要塞	1923	-	東京都小笠原村父島	文化庁詳細調査選定	杉本惇:旧軍史跡 現代に遺された戦争遺産, pp.112-113, 大日本印刷株式会社, 2004.	○
硫黄島	1945~	-	東京都小笠原村硫黄島	民間人立ち入り不可	杉本惇:旧軍史跡 現代に遺された戦争遺産, pp.114-115, 大日本印刷株式会社, 2004.	△
海軍技術研究所本館	1930	-	東京都目黒区中目黒	防衛庁技術研究本部第1研究所, 外観保存	NPOこどもの教育を考える会: <a href="http://www.npo-kyouiku.org/index.html">http://www.npo-kyouiku.org/index.html</a>	□
海軍大学校	1932	-	東京都品川区上大崎	厚生省国立予防衛生研究所, 大部分取壊し	NPOこどもの教育を考える会: <a href="http://www.npo-kyouiku.org/index.html">http://www.npo-kyouiku.org/index.html</a>	×

遺跡名称	竣工年	構造	所在地	活用・備考	出展	判定
海軍第二航空廠佐貫地下軍需工場	-	-	千葉県富津市	ゴルフ場開発により一部埋没	NPOこどもの教育を考える会: <a href="http://www.npo-kyouiku.org/index.html">http://www.npo-kyouiku.org/index.html</a>	×
東京海軍無線電信所船橋送信所跡	1913	石	千葉県船橋市行田	行田公園敷地内	NPOこどもの教育を考える会: <a href="http://www.npo-kyouiku.org/index.html">http://www.npo-kyouiku.org/index.html</a>	△
聖ヶ浦震洋基地跡滑り台跡	1945	コンクリート	千葉県勝浦市	-	飯田則夫: 図説 日本の軍事遺跡, pp.51-52, 河出書房新社, 2004.	△
聖ヶ浦震洋基地跡格納壕	1945	コンクリート	千葉県勝浦市	-	飯田則夫: 図説 日本の軍事遺跡, pp.51-52, 河出書房新社, 2004.	△
茂原海軍航空隊基地跡本部跡	1941	-	千葉県茂原市	萩原小学校	下道基行: 戦争のかたち, p.60, 株式会社リトルモア, 2005.	□
茂原海軍航空隊基地跡掩体壕郡	1941	鉄筋コンクリート	千葉県茂原市	民家の庭, 畑の中, 駐車場	下道基行: 戦争のかたち, p.60, 株式会社リトルモア, 2005.	△
館山海軍航空隊赤山地下壕	1944~	-	千葉県館山市	市指定史跡, 一部公開(全国的にみても大きな壕)	安島太佳由: 訪ねてみよう! 日本の戦争遺産, pp.184-189, 株式会社角川SSコミュニケーションズ, 2009.	○
横須賀海軍航空隊跡掩体壕	1937	コンクリート	神奈川県横浜市	公園(パーベキュー、キャンプ)	下道基行: 戦争のかたち, pp.51, 株式会社リトルモア, 2005.	×
旧横須賀鎮守府庁舎	1926	-	神奈川県横須賀市	在日米海軍司令部・在日米海軍横須賀基地司令部	飯田則夫: 図説 日本の軍事遺跡, pp.54-55, 河出書房新社, 2004.	○
海上自衛隊横須賀地方総監部田戸台分庁舎	1906	木造1階	神奈川県横須賀市	横須賀地方総監部管理・桜井小太郎設計	飯田則夫: 図説 日本の軍事遺跡, pp.54-55, 河出書房新社, 2004.	○
第一ドライドック(洋式製鉄所)	1871	-	神奈川県横須賀市	カリフォルニア州サンフランシスコの扱い	安島太佳由: 訪ねてみよう! 日本の戦争遺産, pp.178-183, 株式会社角川SSコミュニケーションズ, 2009.	○
横須賀海軍病院門柱	1868	コンクリート	神奈川県横須賀市	現在も重要な医療施設	菊池実, 十菱駿武: しらべる戦争遺跡の事典, pp.286-287, 柏書房株式会社	○
横須賀海軍港波止場正門	1946	銅板葺, 鉄筋コンクリート造	神奈川県横須賀市	ヴェルニー公園のオブジェ	菊池実, 十菱駿武: しらべる戦争遺跡の事典, pp.286-287, 柏書房株式会社, 2002.	○
横須賀海軍工廠港水道	1902	イギリス積み煉瓦	神奈川県横須賀市	堀池好之助技師, 熊沢栄太郎技師設計	菊池実, 十菱駿武: しらべる戦争遺跡の事典, pp.286-287, 柏書房株式会社	○
相模海軍工廠毒ガス工場	1940	石造平屋(切妻)	神奈川県高座郡寒川町	非公開	菊池実, 十菱駿武: しらべる戦争遺跡の事典, pp.295-296, 柏書房株式会社	○
記念艦三笠	1902	鋼鉄	神奈川県横須賀市	世界三大記念艦	飯田則夫: 図説 日本の軍事遺跡, pp.56-57, 河出書房新社, 2004.	○
海軍航空技術廠貝山地下司令部	1944	煉瓦, コンクリート	神奈川県横須賀市	要許可	安島太佳由: 訪ねてみよう! 日本の戦争遺産, pp.178-183, 株式会社角川SSコミュニケーションズ, 2009.	○
旧傷兵院箱根病院講堂	1936	木造1階	神奈川県小田原市	見学不可, 内務省営繕管財局設計	飯田則夫: 図説 日本の軍事遺跡, pp.64-67, 河出書房新社, 2004.	○
旧傷兵院箱根病院会議室	1936	木造2階	神奈川県小田原市	職員休憩室・倉庫, 内務省営繕管財局設計	飯田則夫: 図説 日本の軍事遺跡, pp.64-67, 河出書房新社, 2004.	○
海軍功績調査部壕	1945	-	山梨県明野村三の蔵	-	NPOこどもの教育を考える会: <a href="http://www.npo-kyouiku.org/index.html">http://www.npo-kyouiku.org/index.html</a>	×
浜名海兵団跡	1944	コンクリート	静岡県浜名郡新居町	畑の中, 物置	菊池実, 十菱駿武: しらべる戦争遺跡の事典, pp.188-189, 柏書房株式会社	△
明治海軍航空隊基地弾薬庫	1943	煉瓦	愛知県安城市	畑の一部	菊池実, 十菱駿武: しらべる戦争遺跡の事典, pp.198-201, 柏書房株式会社	△
明治海軍航空隊基地燃料庫跡	1943	コンクリート	愛知県安城市	畑の一部	菊池実, 十菱駿武: しらべる戦争遺跡の事典, pp.198-201, 柏書房株式会社	△
第一岡崎海軍航空隊基地防空監視塔	1942	コンクリート	愛知県安城市	共同墓地の中	安島太佳由: 訪ねてみよう! 日本の戦争遺産, pp.134-139, 株式会社角川SSコミュニケーションズ, 2009.	△
豊川海軍工廠火薬庫	1936	木, 鉄, コンクリート	愛知県豊川市	名古屋大学太陽地球科学研究所の敷地内, 要許可	安島太佳由: 訪ねてみよう! 日本の戦争遺産, pp.134-139, 株式会社角川SSコミュニケーションズ, 2009.	△

遺跡名称	竣工年	構造	所在地	活用・備考	出展	判定
愛知航空機瀬戸疎開工場跡 水野地下工場	1945	コンクリート	愛知県瀬戸市水野	瀬戸市民公園の敷地内	菊池実, 十菱駿武: しらべる戦争遺跡の事典, pp.198-201, 柏書房株式会社, 2002.	△
愛知航空機瀬戸疎開工場跡 菱野地下工場	1945	木	愛知県瀬戸市菱野	住宅地	菊池実, 十菱駿武: しらべる戦争遺跡の事典, pp.198-201, 柏書房株式会社, 2002.	△
大和海軍航空隊基地通信用防空壕	1945	コンクリート	奈良県天理市	農業用の倉庫, 私有地	安島大佳由: 訪ねてみよう! 日本の戦争遺産, pp.118-119, 株式会社角川SSコミュニケーションズ, 2009.	□
北吸赤れんが倉庫群	1902	煉瓦, 鉄骨煉瓦2階建	京都府舞鶴市	赤れんが博物館・市政記念館・海上自衛隊被服庫	杉本惇: 旧軍史跡 現代に遺された戦争遺産, pp.38-41, 大日本印刷株式会社, 2004.	□
旧海軍機関学校庁舎	1930	鉄骨造2階建	京都府舞鶴市	海上自衛隊舞鶴地方総監部第一庁舎	安島大佳由: 訪ねてみよう! 日本の戦争遺産, pp.120-125, 株式会社角川SSコミュニケーションズ, 2009.	□
旧海軍機関学校生徒館	1930	鉄骨造3階建	京都府舞鶴市	海上自衛隊第四術科学校庁舎	安島大佳由: 訪ねてみよう! 日本の戦争遺産, pp.120-125, 株式会社角川SSコミュニケーションズ, 2009.	□
旧海軍機関学校大講堂	1933	鉄骨造平家建	京都府舞鶴市	海上自衛隊舞鶴地方総監部大講堂・海軍記念館	安島大佳由: 訪ねてみよう! 日本の戦争遺産, pp.120-125, 株式会社角川SSコミュニケーションズ, 2009.	□
大和海軍航空隊大和基地跡 防空壕	1944	木, 鉄, コンクリート	奈良県天理市岸田町	田畑の中, 農機具小屋	NPOこどもの教育を考える会: <a href="http://www.npo-kyouiku.org/index.html">http://www.npo-kyouiku.org/index.html</a>	△
友ヶ島砲台観測所跡 海軍聴音所跡	1941	煉瓦, 石, コンクリート	和歌山県和歌山市	崩壊箇所多数	下道基行: 戦争のかたち, pp.38, 株式会社リトルモア, 2005.	△
姫路海軍航空隊基地対空機銃座 弾薬庫	1942	コンクリート	兵庫県加西市	神戸大学農学部内, 要許可	安島大佳由: 訪ねてみよう! 日本の戦争遺産, pp.106-109, 株式会社角川SSコミュニケーションズ, 2009.	△
美保海軍航空隊基地	1939	コンクリート	鳥取県米子市	米子空港	下道基行: 戦争のかたち, p.61, 株式会社リトルモア, 2005.	□
美保海軍航空隊基地掩体壕群	1944	木, 板, コンクリート	鳥取県米子市	倉庫(一部美保基地内)	下道基行: 戦争のかたち, p.61, 株式会社リトルモア, 2006.	△
美保海軍航空隊基地防空壕	1944	コンクリート	鳥取県米子市	航空自衛隊美保基地内	下道基行: 戦争のかたち, p.61, 株式会社リトルモア, 2007.	△
大社航空基地滑走路跡	1945	コンクリート	島根県簸川郡	陸上自衛隊出西訓練場	飯田則夫: 図説 日本の軍事遺跡, p.114, 河出書房新社, 2004.	○
西郷海軍望楼跡	1898	切石	島根県西郷町	立ち入り禁止	菊池実, 十菱駿武: しらべる戦争遺跡の事典, p.215, 柏書房株式会社,	△
旧海軍兵学校文庫	1888	イギリス製赤煉瓦	広島県安芸郡江田島町	江田島の迎賓館, 第一術科学校管理	飯田則夫: 図説 日本の軍事遺跡, pp.100-103, 河出書房新社, 2004.	○
旧海軍兵学校教育参考館	1931	鉄筋コンクリート2階建	広島県安芸郡江田島町	史料館, 山下寿郎設計	飯田則夫: 図説 日本の軍事遺跡, pp.100-103, 河出書房新社, 2004.	○
旧鎮守府司令長官官舎	1906	木造平屋 天然スレート葺	広島県呉市	桜井小太郎設計, 国指定重要文化財(建造物; 意匠的に優秀なもの)	杉本惇: 旧軍史跡 現代に遺された戦争遺産, pp.50-53, 大日本印刷株式会社, 2004.	○
海軍呉鎮守府水道官原浄水場	1890	イギリス積み煉瓦	広島県呉市	日本最古, 登録有形文化財(建造物; 再現することが容易でないもの)	菊池実, 十菱駿武: しらべる戦争遺跡の事典, p.282, 柏書房株式会社, 2002.	○
二河水源貯水口	1889	石	広島県呉市	登録有形文化財(建造物; 再現することが容易ではないもの)	菊池実, 十菱駿武: しらべる戦争遺跡の事典, p.282, 柏書房株式会社, 2002.	○
詫間海軍航空隊基地航空灯台	1943	コンクリート	香川県三豊市	水上タクシーを利用して見学	安島大佳由: 訪ねてみよう! 日本の戦争遺産, pp.100-103, 株式会社角川SSコミュニケーションズ, 2009.	△
松山海軍航空隊基地掩体壕	1943	コンクリート	愛媛県松山市	基地の一部; 松山空港	下道基行: 戦争のかたち, p.53, 株式会社リトルモア, 2005.	○
高知海軍航空隊基地	1943	コンクリート	高知県南国市	高知空港	下道基行: 戦争のかたち, p.43, 株式会社リトルモア, 2005.	□
高知海軍航空隊基地前浜掩体壕群	1943	鉄筋コンクリート	高知県南国市	内部で映画鑑賞	下道基行: 戦争のかたち, p.43, 株式会社リトルモア, 2005.	△
宿毛海軍航空隊基地魚雷調整壕	1943	コンクリート, 素掘り	高知県宿毛市宇須々木	-	菊池実, 十菱駿武: しらべる戦争遺跡の事典, pp.240-241, 柏書房株式会	○

遺跡名称	竣工年	構造	所在地	活用・備考	出展	判定
桃型駆逐艦 柳	1917	一部方塊積	福岡県北九州市	防波堤, 近代土木遺産2800選	杉本惇: 旧軍史跡 現代に遺された戦争遺産, p.132, 大日本印刷株式会社.	△
志免鋳業所 竪坑槽	1943	イギリス製鉄鋼	福岡県糟屋郡志免町	シンボルタワー, 国指定重要文化財(建造物; 歴史的価値の高いもの)	安島太佳由: 訪ねてみよう! 日本の戦争遺産, pp.62-68, 株式会社角川SSコミュニケーションズ, 2009.	○
第四海軍 燃料廠跡	1943	鉄筋コンクリート	福岡県糟屋郡	シンボルタワー, 国鉄管理	飯田則夫: 図説 日本の軍事遺跡, p.123, 河出書房新社, 2004.	○
築城海軍航空隊基地 稲童1号掩体壕	1944	鉄筋コンクリート	福岡県行橋市	畑の中(近年全面保存)	菊池実, 十菱駿武: しらべる戦争遺跡の事典, pp.242-243, 柏書房株式会社	○
宇佐海軍航空隊基地 城井1号掩体壕	1939	鉄筋コンクリート	大分県宇佐市	史跡公園, 市指定史跡(歴史上又は学術上価値の高いもの)	安島太佳由: 訪ねてみよう! 日本の戦争遺産, pp.40-43, 株式会社角川SSコミュニケーションズ, 2009.	○
佐伯海軍航空隊 掩体壕	1943	鉄筋コンクリート	大分県佐伯市	登録有形文化財(建造物; 国土の歴史的景観に寄与しているもの)	菊池実, 十菱駿武: しらべる戦争遺跡の事典, pp.290-291, 柏書房株式会社, 2002.	○
丹賀砲台跡	1926	コンクリート壁	大分県鶴見町	ミュージアムパーク丹賀	下道基行: 戦争のかたち, pp.36-37, 株式会社リトルモア, 2005.	○
回天大神基地 格納壕	-	-	大分県速見郡日出町	立ち入り禁止	安島太佳由: 訪ねてみよう! 日本の戦争遺産, pp.50-53, 株式会社角川SSコミュニケーションズ, 2009.	△
佐世保鎮守府凱旋記念館	1923	鉄筋コンクリート2階建, 石	長崎県佐世保市平瀬町	登録有形文化財(国土の歴史的景観に寄与しているもの)	杉本惇: 旧軍史跡 現代に遺された戦争遺産, pp.58-61, 大日本印刷株式会社, 2004.	○
川棚魚雷発射試験場跡	1918	石, コンクリート煉瓦造	長崎県東彼杵郡川棚町	子ども達の飛び込み台	下道基行: 戦争のかたち, p.83, 株式会社リトルモア, 2005.	△
魚雷収蔵施設跡, レール跡	1918	上部:石, 下部:煉瓦	長崎県東彼杵郡川棚町	釣り場	安島太佳由: 訪ねてみよう! 日本の戦争遺産, pp.54-59, 株式会社角川SSコミュニケーションズ, 2009.	△
大村海軍航空隊基地 掩体壕	1923	コンクリート	長崎県大村市	下原口公園(滑り台, 展望台, ゲートボール用具倉庫)	下道基行: 戦争のかたち, p.50, 株式会社リトルモア, 2005.	○
針尾送信所無線塔	1922	鉄筋コンクリート造	長崎県佐世保市針尾中	みかん畑の中, シンボルタワー	NPOこどもの教育を考える会: <a href="http://www.npo-kyouiku.org/index.html">http://www.npo-kyouiku.org/index.html</a>	○
宮崎海軍航空隊基地 赤江飛行場 掩体壕	1944	コンクリート	宮崎県宮崎市	畑の一部・車庫・物置	安島太佳由: 訪ねてみよう! 日本の戦争遺産, pp.44-47, 株式会社角川SSコミュニケーションズ, 2009.	□
宮崎海軍航空隊基地 赤江飛行場 弾薬庫	1943	コンクリート	宮崎県宮崎市	農作業用資材倉庫	安島太佳由: 訪ねてみよう! 日本の戦争遺産, pp.44-47, 株式会社角川SSコミュニケーションズ, 2009.	△
笠之原海軍航空隊基地 掩体壕	1936	-	鹿児島県鹿屋市	畑の一部	安島太佳由: 訪ねてみよう! 日本の戦争遺産, pp.40-43, 株式会社角川SSコミュニケーションズ, 2009.	△
出水海軍航空隊基地 戦闘指揮所地下壕	1937	-	鹿児島県出水市	立ち入り禁止	安島太佳由: 訪ねてみよう! 日本の戦争遺産, pp.40-43, 株式会社角川SSコミュニケーションズ, 2009.	△
出水海軍航空隊基地 哨舎	1937	-	鹿児島県出水市	特攻碑公園(一部ゴルフ場)	安島太佳由: 訪ねてみよう! 日本の戦争遺産, pp.40-43, 株式会社角川SSコミュニケーションズ, 2009.	□
知覧飛行場 弾薬庫	1942	-	鹿児島県南九州市知覧町	町指定史跡	安島太佳由: 訪ねてみよう! 日本の戦争遺産, pp.40-43, 株式会社角川SSコミュニケーションズ, 2009.	○
知覧飛行場 給水塔	1942	-	鹿児島県南九州市知覧町	町指定史跡	安島太佳由: 訪ねてみよう! 日本の戦争遺産, pp.40-43, 株式会社角川SSコミュニケーションズ, 2009.	○
鹿屋海軍航空隊基地跡	1943	-	鹿児島県南鹿屋市	海上自衛隊鹿屋航空基地, 鹿屋航空基地史料館	菊池実, 十菱駿武: しらべる戦争遺跡の事典, pp.257-258, 柏書房株式会社, 2002.	□
万世飛行場 滑走路	1945	土のみ	鹿児島県加世田市	県立吹上浜海浜公園遊歩道	菊池実, 十菱駿武: しらべる戦争遺跡の事典, pp.290-291, 柏書房株式会社	□
万世飛行場 営門	1945	コンクリート	鹿児島県加世田市	県立吹上浜海浜公園門	菊池実, 十菱駿武: しらべる戦争遺跡の事典, pp.290-291, 柏書房株式会社	△
嘉数高知 トーチカ	1945	自然の石	沖縄県宜野湾市	嘉数高台公園	安島太佳由: 訪ねてみよう! 日本の戦争遺産, pp.34-39, 株式会社角川SSコミュニケーションズ, 2009.	△
小祿海軍壕の司令官室	1944	コンクリート, 漆喰	沖縄県豊見城市	海軍壕公園, 一部公開	安島太佳由: 訪ねてみよう! 日本の戦争遺産, pp.34-39, 株式会社角川SSコミュニケーションズ, 2009.	○

写真-9 改修前のトロッコ跡<sup>15)</sup>

活用という点から見れば、この方法も許容できるものと考え、全体 100 件の内、先の○とこの□を合わせた件数 61 件、つまり約 6 割の遺産が何らかの有効活用がなされている状況であると言える。

しかし、△の管理状態が不十分なものも 32 件と全体の 1/3 を占めていること、既に荒地化しているものが 7 件あることから、合わせて約 4 割の海軍関連戦争遺産については保存活用状況が余り良くなく、既に失われている、もしくは失われる危機に瀕していることが判明した。

今回の調査は書籍に記載されているもののみを対象としており、全国各地の全ての戦争遺産を網羅しているとは言いがたい。このため、漏れている物件がある可能性は否めない。

書籍に記載されていないと言うことは、それだけ情報量が少ないということが考えられ、既に失われている可能性が高いと思われる。このため、今回の調査対象の 4 割という数字はかなり大きな数字と言わざるを得ず、今後、各地の戦争遺産が失われてしまう前に早急な手当が望まれる状況であると言える。

## (2) 大津島の現状

### a) 補修されている事例

回天発射訓練基地跡につながるトンネルから発射訓練基地にかけては、元々トロッコの跡が残っていた(写真-9)。しかし、前回天記念館長の小川宣氏によると、「トロッコ跡はハイヒールで来る観光客が蹟くからという理由でコンクリートで埋め立てられた」という(写真-10)。

このような理由での過度の改修は、正確な歴史事実を後世に伝えることができないのみならず、オーセンティシティの確保という観点からも問題であると考えられる。このように機能性のみを重視した保存方法をしないためにも、的確な保存活用方法を選択することが必要である。



写真-10 改修後の様子

### b) 風化している事例

今回実測調査を行った見張り台跡、魚雷調整工場の門柱、危険物貯蔵庫跡、変電所跡、点火試験場跡、兵士訓練用階段跡に関しては、鉄筋が錆びている箇所や、コンクリートの風化が激しく見られる箇所があった(写真-1～8)。

以上から、大津島に現存している戦争遺産は、管理者がばらばらで一体的保存活用が為されておらず、管理が不十分で時間経過による風化が起きているものとして(△)と判断した。

## 6. 結論

日本各地の海軍関連遺跡については、管理状態不良の戦争遺産の共通点として、その事柄に関する情報の少なさ、管理者が不明瞭であること、人里離れた場所に位置しているということが挙げられた。

また、指定文化財、登録文化財となっている戦争遺産は、「日本最初のものである」、「市民生活と深く関わってきたことの象徴」、「全国的に見ても大きなもの」、「再現することが容易ではないもの」、「意匠的に優秀なもの」、「歴史的価値の高いもの」などの理由が挙げられていることが明かとなった。

この中で、歴史的価値の高いものという表現の中には、「その地にしかない」、「希少価値が高い」などという表現も含まれてくると考えられる。しかし、大津島の回天発射訓練基地跡のように希少価値の高いものでも、指定文化財、登録文化財に未指定、未登録の場合があることが明らかとなった。

以上から、戦争遺産の保存活用のためには、戦争遺産そのものが歴史の重要性を後世に伝えることや、戦争を繰り返さない為の戒めを物語るものであることを考慮すると、管理体制をきちんと整え、遺産そのものの現状維持を実施する一方、適切な情報発信をしていくことが望ましい

と考えられる。

大津島の場合は、先ず、回天発射訓練基地跡を始めとする戦争遺産の全てを一つの組織で一元管理することが望ましいと思われる。児童数は極端に減少しているものの、区域内に幼・小・中学校を擁することから、これらもプログラムに組み込んだ平和学習施設などとして積極的に活用していくことが望ましいと思われる。

## 謝辞

本研究における調査中、前回天記念館館長の小川宣氏には回天に関する書籍、情報をいただいた。

実測調査の際には、周南市教育委員会、周南市大津島総合支所、平成 21 年度年度徳山高専土木建築工学科 5 年生の磯村和樹君、稲津貴和子さん、岡本千春さん、古谷亮君、三津井牧子さん、三戸翔子さん、山根成史君らの協力を得た。土木建築工学科からは平成 19 年、平成 20 年の大津島での測量実習データの提供を受けた。

また、本研究には、平成 18 年度及び平成 19 年度の徳山工業高等専門学校特別研究促進費及び、財団法人新技術振興渡辺記念会平成 20 年度科学技術調査研究助成（上期 交付番号：H20-186）の助成を得た。

以上、ここに記して心からの謝意を表する。

## 註及び参考文献

- 1) 周南市役所：<http://www.city.shunan.lg.jp/index.jsp>, (最終確認 2010.01.20)
- 2) 石本馨：戦争廃墟，pp.121-124，ミリオン出版，2006.
- 3) 徳山市史編纂委員会，徳山市史上巻，徳山市，昭和 59 年，pp.289-290
- 4) 小川宣：ああ回天総集編；語り継ぐ回天 - 誕生から戦後 60 年の歩み -，赤坂印刷株式会社，2005，pp.17-27
- 5) 石本馨：前掲書，pp.121-124
- 6) JACAR(アジア歴史資料センター)：  
Ref.C08011464900，海軍一般史料-①中央-引渡目録・昭和 20 年 8 月 31 日引渡目録・光部隊大津島分遣隊 (①-引渡目録- 537) (防衛省防衛研究所)，p.2007
- 7) 土木学会：  
<http://www.jsce.or.jp/committee/doboku-isan/2006/table.pdf>, (最終確認 2010.09.21)
- 8) 小川宣：ああ回天写真集 特攻基地から平和の島へ，p.8, p.12, p.42, 赤坂印刷株式会社，2005.
- 9) 菊池実，十菱駿武：しらべる戦争遺跡の事典，pp.116-118, p.282, pp.286-287, pp.290-291, pp.295-296, 柏書房株式会社，2002
- 10) 杉本惇：旧軍史跡 現代に遺された戦争遺産，pp.38-41, pp.50-53, pp.68-71, pp.112-113, pp.114-115, 大日本印刷株式会社，2004.
- 11) 飯田則夫：図説 日本の軍事遺跡，p.27, pp.36-39, pp.51-52, pp.54-55, pp.56-57, pp.58-61, pp.64-67, pp.100-103, p.114, p.123, 河出書房新社，2004.
- 12) 下道基行：戦争のかたち，p.110, pp.178-183, 株式会社リトルモア，2005.
- 13) 安島太佳由：訪ねてみよう!日本の戦争遺産，pp.40-43, pp.54-59, pp.62-68, pp.120-125, pp.192-195, 株式会社角川 SS コミュニケーションズ，2009.
- 14) NPO こどもの教育を考える会：  
<http://www.npo-kyouiku.org/index.html>  
(最終アクセス 2010.01.29)
- 15) 小川宣：ああ回天写真集 特攻基地から平和の島へ，p.8, 赤坂印刷株式会社，2005.

(2010.9.21 受理)